

〔課程-2〕

審査の結果の要旨

氏名 木 暮 宏 史

本研究は、肝門部悪性胆道閉塞に対する安全で有効な胆道ドレナージ法を明らかにするため、初回ドレナージと恒久的ドレナージの両面から、内視鏡的ドレナージと経皮的ドレナージの成績を比較検討したものであり、下記の結果を得ている。

1. 初回ドレナージの手技的成功率は内視鏡群 89.1%、経皮群 95.7%、減黄成功率は内視鏡的ドレナージ 85.4%、経皮的ドレナージ 78.0%であり、いずれも統計学的有意差を認めなかった。減黄成功に関与する因子の検討では、肝硬変、ドレナージ前総ビリルビン値のみが統計学的に有意な因子であり、アプローチルートやドレナージ領域は減黄成功に影響を及ぼさなかった。
2. 初回ドレナージに関連した偶発症は内視鏡的ドレナージで 19.5%、経皮的ドレナージで 14.0%に認め、統計学的有意差は認めなかった。胆管炎は内視鏡的ドレナージで 9.8%、経皮的ドレナージで 6.0%に認めた。初回ドレナージ後の胆管炎に関与する因子の検討では、ドレナージ前総ビリルビン値のみが統計学的に有意な因子であり、アプローチルートやドレナージ領域は影響しなかった。
3. 恒久的ドレナージにおける内視鏡的 metallic stent (MS) と経皮的 metallic stent (MS) の比較では、50%ステント開存期間は内視鏡的 MS 群 358 日、経皮的 MS 群 486 日、50%生存期間は内視鏡的 MS 群 238 日、経皮的 MS 群 232 日であり、いずれも統計学的有意差を認めなかった。ステント閉塞は内視鏡的 MS 群で 32.5%、経皮的 MS 群で 31.0%に生じ、ステント閉塞率や閉塞原因に差を認めなかった。ステント閉塞以外の偶発症は内視鏡的 MS 群で 35.0%、経皮的 MS 群で 31.0%に認めたが、統計学的有意差は認めなかった。
4. 片葉 MS と両葉 MS の比較では、ステント累積開存率に差を認めず、50%

生存期間は片葉 MS 群 260 日、両葉 MS 群 220 日であり、統計学的有意差を認めなかった。ステント閉塞は片葉 MS 群で 36.4%、両葉 MS 群で 24.0%に生じ、ステント閉塞率や閉塞原因に差を認めなかった。ステント閉塞以外の偶発症は片葉 MS 群で 27.3%、両葉 MS 群で 44.0%に認めたが、統計学的有意差を認めなかった。

5. **metallic stent** の開存期間に関与する因子の検討では、年齢のみが統計学的に有意な因子であり、アプローチルートやドレナージ領域は開存期間に影響を及ぼさなかった。生存期間に関与する因子の検討では、原疾患、ドレナージ後総ビリルビン値が統計学的に有意な因子であり、アプローチルートやドレナージ領域は生存期間に影響を及ぼさなかった。

以上、本論文は肝門部悪性胆道閉塞に対する初回胆道ドレナージにおいて、内視鏡的ドレナージの安全性と有効性を明らかにした。非切除例に対する **metallic stent** を用いた恒久的ステンティングにおいては、内視鏡的な片葉 **metallic stent** 留置の有用性を明らかにした。本研究は今後の肝門部悪性胆道閉塞に対する治療法の向上に貢献すると考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。